

令和4年度 大分県協働推進会議 議事録

日 時:令和4年10月25日(火) 13:30~15:40

場 所:大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス) 2階大会議室

出席者:

学識経験者:吉村充功委員、須藤智徳委員

企業等:中島英司委員、佐藤弥生委員、田島信太郎委員

NPO:川浪佳恵委員、小野二生委員、井上隆委員、河津由美委員、衛藤めぐみ委員

市町村:山内弘美委員

報道機関:小田圭之介委員

関係機関等:藤田亘宏委員、土谷晴美委員

公益財団法人おおいた共創基金 堤健一事務局長

(事務局)

生活環境部長 高橋強、県民生活・男女共同参画課長 河野雅弘

県民活動支援室 室長 佐藤美穂、専門員 野田剛史、主任 茶園舞、主事 倉橋昌子

1 開会

2 議題

(1) 報告事項

令和3年度大分県のNPO法人の状況及び県・市町村とNPOとの協働施策実績について、令和3年度大分県NPO団体等の現状把握に関する調査について、令和4年度ふるさと創生NPO連携促進事業について、令和4年度企業のNPO現場体験活動について、報告を行った。

(主な意見)

- ・若者に対してNPOへの関心を呼ぶことも重要だが、その受け口をどう作っていくかということが非常に大きな課題と考える。
- ・NPOはハローワークに求人を出すが、学生はハローワークに行かないなど、マッチングのところが課題になっている。
- ・SNSを活用した若者へのアピールは、その使い方の傾向等を把握して対応することが重要と考える。
- ・企業のNPO現場体験活動は、行政職員の研修とともに大事な取組と考える。

(2) 議事

「大分県におけるNPOとの協働指針」の改定について、説明を行った。

(主な意見)

- ・指針のできた10年前と現在の課題には大きな違いが出てきており、今後の課題は何なのかということを改めて見直した方がよいと考える。
- ・NPOは収入活動をしっかり行っていくことが求められている団体であるので、ボランティア団体と混同されないよう、きちんと書き分けしてほしい。
- ・たくさんのNPOがあるが、NPO同士が協働して取り組むということが、今まであまりなかった。新たな協働事業の出口づくりのためにも企業との協働は不可欠。企業にNPOを認知してもらうことが一番重要視されてくるのではないかと。
- ・この2年間、コロナ禍で臥薪嘗胆、関係性を見直しを行うなかで、NPOと企業、行政、大学・研究機関が近い存在になっている。
- ・若者も、地域課題に楽しく取り組むNPOが儲かるのであれば、きっとやりたいと思う。協働できる、NPOが活動を続けられるような指針であってほしい。
- ・申請書や報告書など書類が難しい。書類作成に追われない、やるべき課題に力や時間を費やせるようになってほしい。
- ・地域のNPOを行政も必要としてくれているのか、事業の請負金額の低さに疑問に感じる。学生たちに来てほしいが仕事を取っていくのが難しい。
- ・指針の協働は、各主体が自立していることが前提と考えるが、実態を聞くとなかなか難しい。NPOは自立に向けた強化、企業は社会貢献の必要性などに、それぞれできるところからやっていくことがまだまだ必要か。
- ・今の指針は表現が一方的な感じがする。企業の状況も変わってきており、できることをもう少し掘り下げて、役割を洗い出すとよい。
- ・社会で集まって、できないところの社会的な問題を解決していこうという多様なプロジェクトがこれから増えてくるのではないかと。多様な人たちに対する多様な応援の仕方というのが、非常に重要になってくるのではないかと。
- ・NPOの専門的なノウハウを活用して協働することが企業にとってもよいと思う。
- ・協働のイメージが前と変わってきているのではないかと。皆で、大分として解決すべき課題を共有して、それからいろんなステークホルダーとかいろんな形で行政、企業、NPO、みんなで解決していければという考え方もあっていいのかなと思う。

- 企業も、CSR(社会貢献活動)から、ビジネスを用いて社会を良くしようというSDGsの考え方に変わってきている。その延長線上で、同じ目標に合致したNPOが手を組みやすいのかなと考える。
- 協働の具体的な事例をトピックス的に入れるとわかりやすいと思う。埋もれているNPOの掘り起こしもしてほしい。
- この10年間の社会の変化、NPO自身の意識の変化をちゃんと捉えて、NPO自体の成長の段階のために何をサポートしていけば良いかなどを書き込むとよいと考える。その中で出てくる問題をクリアしていくために、行政、大学、専門機関、企業等がどう協力していくかという書き方がよいのではないか。
- NPOに対する理解を深めるということがやはり大切で、いろんなツールや学校教育の中でも、NPO活動という事を扱う時間が少しあった方がよいと考える。
- NPO活動の意義やその存在などを小さい頃から伝えていかないと、どうしてもNPOイコールボランティアというような誤解のままになってくる。情報発信のやり方も含めて考えて。
- 協働の手法の始めに委託や補助が出てきているが、協働は事業、お金だけではなく、いろいろな形でともに作り上げるということだと思うので、今の時代にあった書きぶりを工夫した方がよい。
- 事業の継続性という点では、事業承継の問題や協働の中で取り組んでいることをうまく引き継いでいくということも考えていくタイミングだと思う。